

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2006 年 11 月 15 日作成)

小委員会名	技術技能教育小委員会		主 査 名：秋山恒夫 就任年月：2003 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築教育委員会		委員長名：西谷 章 主 査 名：
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2007 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・目的：教育界・産業界・社会における「ものづくり教育」の普及にむけ、実践的教育ノウハウの開拓、ものづくり人材の育成法等を調査研究する。 ・初年度：各界における「ものづくり教育」と「人材育成」の課題整理 ・2年度：中間報告書のまとめ、「ものづくり教育シンポ」の企画 ・3年度：各テーマの継続的調査研究 ・4年度：研究成果のまとめ(シンポ、出版、提言等) 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有り (教育界・産業界から半々に構成、現14名、主査、幹事) 秋山恒夫(能力開発総合大) 堀内仁之(都立蔵前工高) ・内藤康男(兵庫県立尼崎工高) ・土井康生(岐阜高専) ・池寄助成(富山国際職業学院) 深井和宏(ものづくり大) 小林謙二(関東学院大) 大湾朝康(鹿島建設) ・姫木昌弘(富士教育訓練センター) ・菅澤光裕(旭化成ホームズ) ・中野栄吉(中野工務店) ・中村光彦(全日本建築士会) ・西山英勝(建設通信新聞社) ・名倉啓司(建通新聞社) [*戸倉千武(戸倉建設) 物故]		
設置 WG	なし		
2006 年度予算	約 10 万円	ホームページ公開の有無：準備中 委員会 HP アドレス：準備中	

項 目	自己評価
委員会開催数	10 回(年度内計画を含む) (6/8(木)、 6/23(金)合同WS、 7/21(金)総合大東京校、 8/24(木)、 9/13(金)、 10/26(木)ものづくり大学、 11 月、 12 月、 2 月、 3 月ワークショップ)
刊行物 (シンポ資料等は除く)	1. 「建築のものづくり学校ガイド(仮)」(企画準備中)
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 中間報告書『ものづくり教育の新たな地平をめざして』(2004/11、約 180 頁) 2. 「ものづくり教育シンポジウム 2004 ものづくり教育の新たな地平をめざして」(2004/11 開催、参加約 50 名) 3. 合同WS「現場インターンの方法」(6/23、生産情報小委と共催) 4. 教育現場見学会(7/21 総合大東京校、 10/26 ものづくり大学) 5. 「ものづくり教育ワークショップ 2007 実践的な現場インターンシップの進め方をめぐって」(2007/3 開催予定、参加約 50 名予想)
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. 小委員会PR記事「いま伝えたいトピックス/ものづくり教育 建築業界のドラスティックな変化と実践的教育の普及課題」(「建築雑誌」2004/7) 2. シンポPR記事「ものづくり教育の新たな地平をめざして」(「建通新聞」2004/11、主査寄稿、連載4回) 3. 「少子高齢化と技術・技能の伝承」(総合論文誌第5号「ものづくりのフロンティア」、主査寄稿、2007/2 刊予定)
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 初年度、2年度は、中間報告書まとめ、シンポジウム開催等を行い、今後の道筋への大きな成果を上げた。最終年度は、次期発展につなげるべく、刊行物の企画、教育現場見学会、「ものづくり教育WS」の開催、委員会HPの立ち上げ準備等の作業を実施した。 2. 当初計画通りに行かなかった点もあるが、「ものづくり人材」や「ものづくり教育」の時代課題の重要性に鑑み、今後は、研究調査の一方、出版や催し交流、提言など、社会発信を視野に入れた活動が必要。
委員会活動の問題点・課題	1. 委員の多忙、予算制約などで全員出席が少なく、十分な議論が不足がち。 2. 研究テーマの性格上、他委員会や他団体との幅広い連携が必要。 3. 2007 年問題など、技術技能の継承が産業界・社会では大きな関心集めるが、学会内では関心が薄く、学会と社会をどうリンクさせて行くかが課題。